



関西 ECOMAIL

関西の学会員の皆様に、ワークショップのお知らせと環境教育に関わる情報交換をしていただくために発行しています。

また学会員以外の方々の、環境教育に関心を持っておられる方や実践をされている方とのコミュニケーションも広く図りたいと思います。

年間1000円の通信費をいただきましたら、ワークショップの案内とECOMAILを送らせていただきます。(通信費振込先……日本環境教育学会関西支部=郵便局=「大阪9-37886」) [5月から番号が交換されます→00990-5-37886]

第31回 関西ワークショップのお知らせ

日時 2月26日(土) 雨天中止

テーマ 炭焼き作業・里山体験

場所 河南町持尾地区

(近鉄河内長野線富田林駅東出口3番バス乗り場より9:50発

「河内」行き「滝谷口」下車)

今回は南河内水と緑の会の協力によって、フィールドワークを実施することになりました。炭を焼くために冬の雑木林に入り、木を伐るという素朴な原体験を通して、里山の自然と人間を実感します。希望者は事前に打ち合わせをしますので、必ず事務局まで問い合わせして下さい。

事務局 〒582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1
大阪教育大学環境科学教育 鈴木研究室気付
電話 0729-76-3211 (内線3127)

第32回 関西ワークショップの予告

日時 3月25日(金)

テーマ UNEP施設とさくやこの花館施設の見学

場所 大阪市鶴見緑地、花博会場跡

(さくやこの花館の入館料は自己負担)

環境学習から環境改善へ

日本環境教育学会関西支部の第2回研究大会は、12月11日に大阪教育大学柏原キャンパスで開催された。この研究大会が環境学習だけに終わるのではなく、きっと環境改善につながるようにという思いをこめて、つぎの3部構成で進められた。

◇ 特別報告では

「ボルネオの熱帯林伐採現場から人間の幸せを問い直す」というテーマで、本庄眞さん（奈良環境教育研究会・奈良県東榛原小学校）による現地実体験報告が行われた。本庄さんは昨年8月にマレーシアのサバ州サンダカンの熱帯林伐採地を歩き、その時に撮った光景をスライドで紹介した。画面からは伐採現場のドキュメンタリーとしての迫力とともに、ただのレンズではキャッチできない環境教育の眼を通した異文化の様々な姿が感じられた。またサラワク州の少数民族であるイバン族の青年たちと生活を共にした時の話。森林を神の恩恵と信じていた現地人の生活に、いろいろな電気製品など物質文明が次第に浸透して、人々の生活のリズムを破壊しつつある事実を目の当たりに見て、日本人に今できることとは何なのか、深く考えさせられた。現地の人たちはしきりにルック・イーストと言うが、むしろ日本人こそ彼らの農業に自信をもった暮らしや生きるリズムの自然さを感じ、学ぶところが多くあるのではないか。自分の体験のなかから、本庄さんはこのように語りかけた。

◇ 一般報告について

2つの会場に分かれて12人の会員が報告を行った。紙面の都合によって内容のすべてを報告することはできないので、詳しくは報告集を見ていただきたい。学校教育関係を中心にした第1会場では、小・中・高校等6名の先生らが日頃の実践について報告した。そのなかで小島宏美さん（泉大津市立浜小学校）は、授業で子どもたちが校務員さんに話をしてもらっていたとき、「ゴミを出すのは人間だけ。動物はゴミを出さない・・・」このハッとする一言から子どもたちのゴミを捨てる態度が変わっていった様子などを報告した。

第2会場は地域社会における環境学習を主題にして、大学・地方自治体・企

業等の分野から6名の報告があった。大西順一さん（八尾市環境部）は、恩智川など地域における快適な水辺環境やまちづくりを、人づくり・物づくり・ことおこしという構図でとらえて、特に人づくりの視点から環境学習・環境教育事業の必要性について強調した。事例として小学生、消費者団体によるNO₂の測定など市民の環境監視活動や、生活排水アドバイザー、環境ライフデザイナーなど住民参加型の環境保全活動等を紹介した。

◇ 総合討論から

午後の一般報告を受けて、「地域社会・学校・行政が一体化した環境教育の推進」について、鈴木善次さん（大阪教育大学）の司会で討論が行われた。最初に3つの分野の相互関連図を提示し、これに基づいて住民参加型の環境学習のあり方や問題点から話が進められた。皮切りに千葉佳一さん（奈良県磯部郡川西町教育委員会リーダーバンク登録者）は川西町での実践から、住民・各団体・行政マン・議員をふくめた「環境会議」を、各地域、自治体でも早急につくるよう提言。学校・地域社会関連で上西寛司さん（よどがわネイチャーくらぶ）は、ツバメ調査の実践から、学校と地域の市民団体との連携の難しさについて報告した。一方、秦誠さん（神戸エコアップ研究会）は自治体の市民啓発を担当する環境部局と都市公園などの建設等に関係する事業部局について役割分担上の問題がある点などを指摘した。また持木一宏さん（三重大学教育学部科目等履修生）はアメリカの環境教育をみて、日本でも子どもの意見が自治体にも提案できるような仕組みにしなければと提言した。これを受けて大西さんが八尾市で行った「こども環境サミット」を挙げて、その成果を説明した。

以上は討論内容の幾つかを挙げたにすぎないが、いろいろな分野で活動している会員から積極的な発言が寄せられた。最後に地域社会、学校、行政いずれの分野にしても、まだ地球環境問題の危機を直視する点で甘さがあるという反省と、その解決に向けての実践のためにも諸分野の連携が必要なことを再認識して、討論を閉じた。

（文責 赤尾）

『言葉』からの環境教育 ②

— 小学校国語教育最前線 —

北村 直也（寝屋川市立中央小学校）

ゆうひのてがみ

野呂 純

ゆうびんやさんが

ゆうひを せおって

さかみちを のぼってくる

まるで きりがみのように

ゆうひを すこしずつ ちぎって

「ゆうびん」

ポストに ほうりこんでいく

ゆうびんやさんが かえったあと

いえいえのまどに

ぼっと ひがともる



これは小学校4年生の国語教材として取り扱われている「詩」である。

『この詩を一読しても子供達には分かりにくい。「さかみち」を上って来る郵便屋さんの姿を、どの様にイメージさせ掴ませるかがポイントである。つまり、だれがどこから郵便屋さんを見ているのか。さかのうか、下か、そのとき夕日はどこにあるのか、どの様になっているのかを、個々の子供の中にしっかりイメージしてもらうことが大切である。それさえ出来れば「ゆうひを すこしずつ ちぎって 「ゆうびん」 ポストに ほうりこんでいく」「いえいえのまどに ぼっと ひがともる」ことの意味が子供達により深く理解され、作者が夕日の美しさに感動しながら、その中に見える人々の生活を「ゆうびん」＝「てがみ」から暖かく見ているその姿が見えてくる。』 まあ、ざっとこの様な教材解釈が普通、授業にかける前に行われるであろう。

しかしこの時、指導者である我々が少し観点を变えて、夕日が大自然そのものの美であること、その懐の中で生きている我々人間がいることが、都会においても見ようとすれば見えて来るものであることを心に留めて置く必要がある。そうすれば子供の中にある大自然の捕らえ方が鋭敏で繊細、且つ暖かいものに育っていく契機になるものをも逃さない。

私が、今担任している4年生子供達と社会科学習の中で「寝屋川の治水」を2か月余りに渡って追及したことがある。何人かの子供達が日曜日に寝屋川治水緑地に出かけていき日長一日ゆっくりと遊んできた。次の日私の所へやってきて、夕焼けや夕日の大きさ、色合い、素晴らしさ、美しさを、もう一生懸命話すのである。この後から、彼等の目には夕焼けや夕日が入るようになった。お使いの帰りにみた夕焼けや塾の行きしなにみた夕日の

話をよくしてくれる。感動したことから、この寝屋川の都会の空に広がる夕焼けを、夕日を見ようとする心の目が育っていく。そして、そのことはこの大自然の大空の下に生きる私達の存在に目が向いていく伏線にもなる。

あと数日したら、この詩を学級で学習する予定である。あの子たちの反応が楽しみである。しかし本当に環境教育とは、焦らず弛まず子供達の心の目を育て、心の耳を育て、心の感觸を育て、心の言葉を育てなければならない時間のかかるものであることか。

日本環境教育学会第5回全国大会のご案内

日本環境教育学会第5回全国大会を、下記の通りに開催いたします。環境教育に関心をおもちの会員外の方々もお誘い合わせのうえ、ご参加いただければ幸いです。

今回はとくに、従来の小集会等は「サテライト・シンポジウム」、またワークショップは「ミニ・ワークショップ」として、フォーマルな時間帯に十分な時間を取りました。さらに、「本格的なワークショップを実施してほしい」というご意見に答えて、大会前に「フィールド・ワークショップ」の枠を用意しました。

実行委員会 委員長 谷口 文章

＜日 程＞ 1994年5月14日(土)～15日(日)
 9:00 9:45 10:00 12:00 13:00 16:30 17:00 18:00 20:00

第1日 14日(土)	受 付	開 会	特別 講演	昼 食	研究発表 (I)	休 憩	総 会	懇親会
---------------	--------	--------	----------	--------	-------------	--------	--------	-----

8:30 9:00 10:30 12:00 12:45 13:45 16:45 17:00

第2日 15日(日)	受 付	研究発表 (II)	サテ・シンポ ミニ・ワーク	昼 食	サテ・シンポ ミニ・ワーク	シンポ	閉 会
---------------	--------	--------------	------------------	--------	------------------	-----	--------

＜会 場＞ 甲南大学 8号館全館・10号館南棟と北棟8階
 (阪急岡本駅またはJR摂津本山駅から北西に徒歩12分)

＜費 用＞

a. 参加費	一般会員：(前納) 4000円 (当日) 5000円
	学生会員：(前納) 2000円 (当日) 3000円
	会員外：5000円
b. 懇親会費	一般会員：3000円 学生会員：2000円

なお、特別講演・研究発表・シンポジウム・ワークショップの内容、参加申し込み、また宿泊や交通の詳細については、次号エコメール(3月)でお知らせする予定です。

申し込み及び問い合わせ先

〒658 神戸市東灘区岡本8-9-1 甲南大学 文学部 谷口研究室
 日本環境教育学会 第5回全国大会 実行委員会事務局
 ☎078-431-4341(内線553/512) FAX 078-413-2671 伝言は内線550

ネットワーク

各地団体の行事

ゆっくるっく番外編

大和川カモ・ウォッチング

〈とき〉1月23日(日)

〈場所〉大和川周辺

〈集合〉地下鉄御堂筋線北花田駅改札
前10時 昼ごろ解散

〈持ち物〉防寒具、筆記用具、あれば
双眼鏡

〈参加費〉上に同じ

〈問合せ〉山本浩平0722-59-3202

やぶこぎ保険1月16日(日)

〈問合せ〉富川06-571-5783

●そよごの会企画

大和川バードウォッチング

〈とき〉2月6日(日)10時~12時

〈コース〉北花田駅~大和川周辺

〈集合〉地下鉄御堂筋線北花田駅10時

〈参加費〉300円(資料代)

〈持ち物〉防寒具、筆記用具、あれば
図鑑、双眼鏡

〈問合せ〉杉野文景0723-34-3439

●第3回身近な環境調べ発表・交流会

〈とき〉1月22日(日)13時半~17時

〈会場〉豊中市立市民会館大集会室

〈内容〉①豊中市内の小学生~大人による
身近な環境調べの発表と展示

②講演・谷口文章(甲南大助教授)

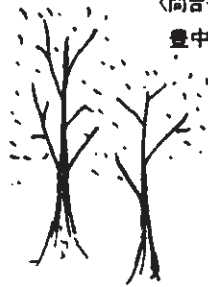
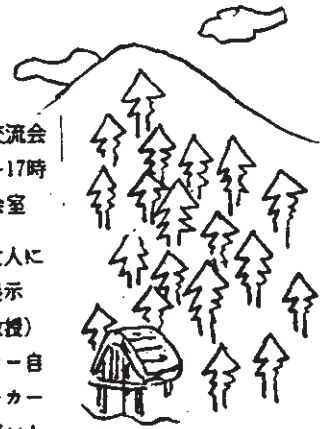
③抽選でソーラーカー、ソーラー自
転車に乗れる、抽選でソーラーカー
模型・リサイクル自転車プレゼント

〈参加費〉無料

〈主催〉豊中市・豊中市教育委員会

〈問合せ〉豊中市環境対策課06-858-2108

豊中市立教育研究所06-862-4624



●第6回土・水・空気・生き物を考える環境保全の集い

〈とき〉2月20日(日)9時~

〈会場〉此花会館(環状線西九条駅下
車徒歩10分)

●とよなか自然ウォッチング

冬の雑木林はどんなだろう?

〈とき〉1月30日(日)9時半~12時

〈集合〉9時半豊島高校正門前

〈持ち物〉あれば図鑑、ルーペ

〈講師〉増田茂さん

〈参加費〉一般100円(資料代)

〈問合せ〉鳥熊山の雑木林を守る会

(易)06-849-2435

第19回 奈良環境教育研究会のご案内

期日 1月28日(金) 午後6:00-9:00

場所 榎原公苑事務所(小会議室:電話07442-2-2462)

[近鉄榎原神宮駅下車、北へ歩いて10分、または欽傍御陵前下車、
西へ徒歩12分]

話題提供

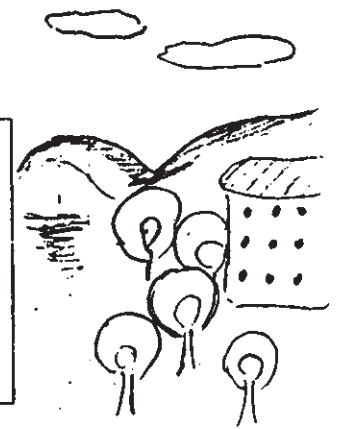
岩本廣美(奈良教育大学助教授)

「社会科教育における環境教育の展望」

[今後の予定]

2月例会 2月25日(金) 午後6:00-9:00 話題提供:たなか よしゆき氏
「人生途中下車あるいは(クモの思想)」(絵本作家、詩人)

3月例会 3月19日(土) 午後1:00-5:00 レポート大会の予定



講演会

英国での自然復元・創生について

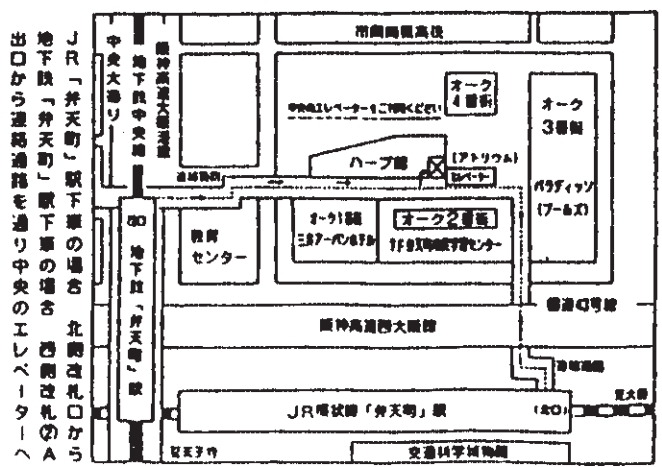
英国で、農業と環境保全、植生管理、種の保護と種の回復計画、草原・森林での野生生物生息地の創造環境保全とボランティア活動、田園地域でのリクリエーション等について造詣の深いT ウェルズ氏による講演会を下記のとおり開催します。

記

- <日時> 1月29日(土) 13:30~16:30 (開場13:00)
途中約1時間のコーヒープレイクの時間をとり
ウェルズさんを囲んでみんなで歓談します。
- <テーマ> 野生生物生息地の創造 (一般原則・草原・灌木林・森林)
- <講師> T. ウェルズ氏
イギリス陸上生態研究所 自然保護・植生管理室長
(研究分野: 集団生物学、植物個体数統計学、生息環境形成、植生管理
自然環境保全)
- <会場> 大阪市立弁天町市民学習センター 講堂 Tel 06-577-1430
大阪市港区弁天1-2-2-700 弁天町駅前 オーク2番街7F
- <定員> 50名 往復ハガキ又はFaxで申し込んで下さい (定員になり次第締切ます)
- <参加費> 2000円 (コーヒープレイクの費用も含まます)
- <共催> (株)大阪自然環境保全協会 日本造園学会関西支部
- <後援予定> 大阪府 大阪市 建設省近畿地方建設局
- <協賛> (株)日本造園コンサルタント協会 関西支部
- <申込・問合せ>
(株)大阪自然環境保全協会 Tel 06-374-3376
Fax 06-374-0608
〒531 大阪市北区豊崎2-4-5

- 英国での自然復元講演会
<とき> 1月29日(土) 13時半~
<会場> 弁天町オーク72番街7F
<参加費> 2,000円
- 太子町里山保全活動第2回
<とき> 1月30日(日)
<集合> 近鉄喜志駅 9:30
<持ち物> 弁当、水筒、あればノコギリ、カマ、ハサミ
<連絡先> 金谷薫 (要連絡)
06-382-3964
- 安威川の冬鳥 1月23日(日)
<問合せ> 高島06-877-5249

<弁天町市民学習センター付近図>



第6回 土・水・空気・生き物を考える環境保全の集い

— 人と自然の共存を求めて —

日時 : 1994年2月20日(日) 9時~17時 (17時半より懇親会)

会場 : 止比花会館 大阪市此花区西九条5丁目4-23 ☎06-461-1547代
(環状線/阪神西大阪線 西九条駅下車 北へ約100m)

資料代 : 1000円

- | | | | |
|---------|------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------------------------|
| 9:00 | 受付開始 | (分科会) | |
| 9:30~ | 記念講演 池谷孝文氏(日本生態系保護協会会長)
「豊かな自然をとりもどすために」 | 第一分科会 | ゴルフ場開発・巨大開発 |
| 11:00~ | 各地からの報告
*大阪・摂津峡スポーツセンター建設問題
*奈良・大台ヶ原をとりまく原生林の状況
*和歌山・「フォレストシティ計画」問題 | 第二分科会 | 近畿の原生林・自然林を守る |
| 13:00~ | 各分科会(右記) | 第三分科会 | 里山の自然を守る - 保全と活用の実践例と展望 - |
| 17:00 | 閉会 | 第四分科会 | 生き物と自然の原体験 - 自然を認識する機会と方法 - |
| (17:30) | 懇親会 | 第五分科会 | 地球環境の危機の現状 |
| | | 第六分科会 | ウェットランドの保護 - 最近の事例から - |
| | | 第七分科会 | 環境教育 |



講師プロフィール

池谷孝文(いけやともみ) 1942年静岡県生まれ、現住所埼玉県川口市
日本生態系保護協会会長、日本鳥類保護団体協議会会長、農村環境整備センター中央委員会委員、
日本ナショナル・トラスト協会評議員、日本ビオトープ協会理事その他多くの役職についている。
建設省・農林水産省・通産省・国土庁等行政関係団体、各種団体・企業での講演が多い。
主な著書は『日本を救う「最後の選択」』『ビオトープ緑の都市革命』『小鳥が元気になる木』など。

主催 自然環境を考える近畿連絡会

連絡先 大阪自然環境保全協会

〒531 大阪市北区豊崎2-4-5 ☎06-374-3376

環境ワークショップの話題提供者(報告をお願いできる方)を募集しております。
また、どのようなテーマでのワークショップ開催が望ましいか、あるいは講演以外に
どのような形式のワークショップ開催が望ましいかなど、関西ワークショップに対す
るご希望なども、関西支部事務局までお寄せ下さい。(連絡先はこの頁に掲載)

★ 関西ECOMAILへの投稿を募集しています。

★ また、ネットワーク欄への情報提供もよろしくお願い致します。

関西ECOMAIL

第19号 1994年1月20日発行

通信費 一年 1000円

編集 日本環境教育学会関西支部世話人会

発行 日本環境教育学会関西支部

事務局 大阪教育大学環境科学教育 鈴木研究室 気付

〒582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

電話 0729-76-3211(内線3127)

次回 第20号 1994年3月1日発行予定

原稿締め切り 94年2月10日